

カプサイシンと矢追インパクト療法(Y.I.T.)

Relation of capsaicin & Y.I.T.

山脇診療所
Yamawaki Clinic

山脇 昂
Takashi Yamawaki

昨年(西暦2021年)アメリカのデヴィッド・ジュリアス教授がカプサイシン(唐辛子の辛み成分)の〈辛さ〉〈痛感〉〈熱感〉をアーデム・パタプティアン教授が〈圧感覚〉要するに触覚の脳内体性感覚野ニューロンの同じ場所で受け取られていることを証明したことでノーベル賞を受賞した。口内の〈辛さ〉を感じ取る細胞の受容体タンパク質が間違っ〈暑さ〉も感じるという。それを脳内の同じ場所に伝達するという。皮膚上の〈痛さ〉を感じ取る蛋白質も同じという。しかし医療的にはカプサイシンは温シブ程度にしか活用されていない。NHKではまだ医療的活用はなく、これからと言っていた。同じくNHK「鶴瓶の家族にかんぱい」という番組で鶴瓶さんが〈辛いもの食べると目が大きくなる〉とちらつと言ったことがある。一般の人たちはこの現象をもう既に知っているようだ。Y.I.T.は皮内注射であり、口内で感じる〈辛さ〉はないが、皮内注射で〈痛感〉〈熱感〉〈圧感覚〉を感じさせる。目も大きくなる。「アレルギーの臨床」2021年5月号で数十例写真付きで示した。次の6月号では曲がった背中が次第に伸びてゆく写真を十数例示した。こういうことも起こるのです。これは〈熱感〉のもたらす作業です。〈熱感〉は何故起きるのか?血中の1中性脂肪が筋肉中に3脂肪酸となって取り込まれ

燃焼する。この刺激が循環を増強することで筋肉中脂肪酸燃焼量が多くなります。代謝が激しくなりますから〈熱感〉が湧きます。血色・顔色もよくなります。少し長くこの療法をやっていると爪の伸びや頭髮の伸びが早くなるのが観察されます。インシュリンを皮下注射してもこの〈熱感〉は起きません。Y.I.T.を定期的にやっていると、血中中性脂肪を定期的に測定すると次第に減少するのが判ります。家族性高中性脂肪血症の人など次第に皮膚が白く木目細かく奇麗になってゆくのも分かります。糖を燃やしてもこの温かさは即時には得られません。糖尿病にはインスリン・他の血糖降下剤より良く効きHbA1cを減らします。1週間に1回程度行います。更に内服薬を併用すると、相乗的に効果的です。Y.I.T.は脂肪酸を燃焼させ、筋力を回復する運動と同じ効果をもたらす健康的な療法だからです。目を大きくするには上眼瞼にY.I.T.を遣ると最も効果的です。目全体とその周囲に激しく〈熱感〉がもたらされ、その後眼裂は大きくなり、入ってくる光量が多くなりますから、明るくなり良く見えるようになります。両側後頭部に打っても視覚領野を刺激して目は大きくなります。涙目・ドライアイ始め眼瞼下垂とか近視遠視老眼・年を取って細くなった目等あらゆる眼に効果あります。白内障・緑内障・眼底出血・

◆ Clinical Academic Topics ◆

網膜剥離・黄斑変性症等も時間を掛ければかなり元へ戻せると思います。曲がった背を伸ばすには後頭部から腰 尾帝部迄両側の姿勢保持筋に沿って Y.I.T. を数十個打ちます。体が温かくなり、尿の出も改善します。今までたらたらだった尿がシャーと出るようになって驚き、親戚中に電話を掛けまくったという老御婦人もいます。時間はかかりますが姿勢保持筋の筋力が回復し、次第に姿勢も伸びてゆきます。因みに筋力が年と共に低下した状態をサルコペニアあげく弱ってしまったことをフレイルと呼びます。腎の失われてしまった糸球体を復活することはできませんが、今まさに失われようとしている糸球体は救うことができると思います。すなわち腎機能の現状維持と長持ちがもたらされます。腰に打つと温かくなり、両側腎の循環は良くなりますからこういうことも起きます。他に腎循環を増す効果的方法や薬あるでしょうか？腎の循環を旺盛にすることは老いの進行を防ぐ、若さを保つと同義語なのです。色々な腰痛 尾帝痛 仙腸関節痛にも効果あります。その下の股関節痛・膝関節痛・足関節痛・アキレス腱痛・足の色々な痛み、手指の諸関節痛にも Y.I.T. は器用に治療出来効果あります。リュウマチ性関節痛には著効します。沢山の有害無害の薬服用は必要なくなります。筋肉が弱り歩行しにくい人にはハムストリング・腓腹筋等をも Y.I.T. で刺激します。

順天堂大学で〈老化細胞除去ワクチン〉が小さな動物レベルで発見されたと発表されていましたが、私は Y.I.T. を 20 数年継続してきた人達は老化が進行しにくい印象を持ちました。例を申し上げますと 93 歳の御婦人が 10 年以上この療法を受けています。来院される時は若い人に付き添われ、歩行が不安定でやっと来院されますが、Y.I.T. を受けて帰るときは筋力が付き少し姿勢も良くなり歩行が安定します。ある時から「私は自然に死にたいから、この療法を受けるのをやめます」と言います。

その人が 94 歳に成ったら、改めて年を自覚し「又この療法を受け続けます。」と言うのです。それでも時々は現状に負けて「どこか施設に入所したい」と申します。

私事で恐縮しますが、私の妻は 62 歳に成る直前に子宮癌の転移でなくなりました。そのお母さんは 101 歳に成りましたが施設で元気に暮らしています。認知症にもなっていません。10 数年前 激しい頭痛が襲い左外耳道帯状疱疹からなるラムゼーハント症候群になり大病院の耳鼻科でも見放され、激痛も歪んだ顔面麻痺も私が Y.I.T. で治しました。聴力だけは激減しましたが元に戻りました。2 人の若い時の写真は平成元年 5 月 17 日だったと思いますが朝日新聞全国版に掲載されています。

何かを直すということは《元に戻す》ということであり《若い方へ戻す》ということですが、余りにもその変化は速いので、治療を終え帰る時には、「私は元々こうだった。この治療のせいではない」と怒って帰ってしまう人もいます。それをやれるのはカプサイシンの医療版とも言うべき（私はそう信じます）Y.I.T. であろうと思います。今まで色々な学会に発表を希望し、査読で採用を断られ続けて来ました。故に知名度はなく、一般に知られていません。流布はしていませんが、あまりにもスケールの大きい療法であり、学会で発表しようとしても、査読医には簡単には受け止められないのだと思います。周辺の医師も全く関心を示しません。何にでも効く療法なんてと、現在の医療の細分分岐具合から見ても、一般の人は信用しません。小児や大人のアトピー性皮膚炎・喘息・アレルギー性鼻炎の治療から始まったこの療法は色々な他の疾患にも有効なことを私は体験して来ました。新型コロナ感染症後の色々な後遺症で悩む人達にも効果的だと思います。

相手にされない物の中にタカラはあります。皆が嫌う〈痛み〉を治療手段に使う療法です。

2022 年年頭の話